

令和元年度 第2回 第3次栗東市食育推進計画策定会議 会議録要旨

日 時	令和元年8月2日(金) 午後1時30分～午後3時30分
場 所	栗東市総合福祉保健センター研修室
出席委員	田中優委員(会長)、増田江利子委員、鶴飼周太郎委員(副会長)、富田文代委員、山内宏美委員、杉田聰司委員、大橋一天委員、廣瀬國子委員、山内亜紀子委員、竹橋貴美子委員、秋山直哉委員、前原美幸委員、本間由樹委員、泉千春委員、山元美千子委員
事務局	学校教育課参事、学校教育課長補佐、幼児課長、幼児課担当、学校給食共同調理場所長、農林課担当、子ども・健康部長、健康増進課長、健康増進課長補佐、健康増進課担当2名
事 項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 市民憲章唱和</li> <li>3. 挨拶</li> <li>4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前回策定会議での質問事項について(報告)</li> <li>(2) 市民の健康等の状況</li> <li>(3) ヒアリング結果報告</li> <li>(4) 第2次計画の取組と評価</li> <li>(5) 食に関する課題と現状の取組</li> <li>(6) 第3次計画の基本的な考え方</li> </ol> </li> <li>5. その他</li> <li>6. 閉会</li> </ol>

1. 開会

2. 市民憲章唱和

3. 挨拶

- ・会長が挨拶を行った。
- ・事務局より傍聴者はいないことを報告した。

#### 4. 協議事項

会 長：この会議は原則公開となっている。会議の公開について、自由闊達な意見交換ができなくなる協議事項の場合や、会議の公正かつ円滑な運営に支障が生じると認められる協議事項の場合は非公開とすることとなっている。本日の協議事項について、非公開とすべき協議事項はあるか。

- ・意見なし。これにより、本日の会議はすべて公開となった。

##### (1) 前回策定会議での質問事項について（報告）

- ・事務局が、前回策定会議で質問のあった調査データの回答率やサンプル数について説明を行った。

事務局 第2次計画の評価指標として、滋賀県がおよそ5年に1回実施している「滋賀の健康・栄養マップ調査」のデータを使用している。この調査の回答率とサンプル数については、栗東市の平成27年（調査実施年）時点での全世帯数である約2万4千世帯中、約1%にあたる224件に調査を行った。実際に調査にご協力いただいたのは203件で、全世帯の0.82%だった。

会 長 補足として、アンケート調査がいわゆる栗東市を代表するサンプルになっているかということで、統計学的に5%の誤差範囲内に入るサンプル数、370～380世帯程度なければ統計的に有意とは言えない。これは既に行われた調査だが、その統計調査が信頼に値するものかどうかというのは、今後に向けて考えたほうがよい。

##### (2) 市民の健康等の状況

- ・事務局が資料の説明を行った。
- ・意見なし。

##### (3) ヒアリング結果報告

- ・事務局が資料の説明を行った。

会 長 資料2について、基本的に食に対して前向きな意見がかなり多い印象を受けた。その中で、今後の事業提案につながるようなアイデアもいただいていたと思うが、栗

東市では給食の試食会のようなものは行っていないのか。

事務局 学校ごとにPTAの保護者さんの活動の中で試食会を実施しているところが何校かある。PTAの保護者会の後に希望され、約1割程度の方が参加されている状況。

会長 学校のPTAに任せられているので、市全体として統一化しているわけではない。

事務局 去年9月から新しく給食センターが開設したこともあり、一般の市内の団体向けにも施設見学と試食会を応募形式で行っている。

会長 資料3について、私も子ども食堂には関心があり、大阪や兵庫のいくつかに聞き取りに行ったことがある。傾向が似ているというか、子どもが成長するという姿が意見で出てきているのが共通的だという印象を持った。関わる大人も成長や学びがある。特に食に関して、残さずに食べるという傾向が子ども食堂には多いように思う。

#### (4) 第2次計画の取組と評価

- ・事務局が資料の説明を行った。
- ・意見なし。

#### (5) 食に関する課題と現状の取組

- ・事務局が資料の説明を行った。

会長 課題に対して一人ずつ幅広くご意見をいただきたい。

委員 課題3の野菜に関して、健康推進員として、量販店で生の野菜と茹でた野菜を展示し、350gの生野菜を計量していただく体験を通して、これくらい摂っていくのだということを知っていただく活動を行っている。その他にも簡単な野菜レシピと食育の日のティッシュ配布を行い、毎月19日が食育の日とアピールしている。

また、課題5については、地域の人と共食する機会を、料理教室の開催などで健康推進員としても活発にやらせていただいている。

委員 課題3の野菜摂取量について、栄養士会でも量販店で実際にどれくらい食べているか、カットした野菜をお盆にのせて量ってもらうイベントを行っている。簡単なレシピの紹介などもしている。課題8の地産地消、郷土料理の継承は、こちらも栄養士会で郷土料理の調理実習を実施する予定。琵琶湖の漁師さんに漁の現状などをお話いただいた後に、郷土料理の調理実習をするという取組を考えている。まずは

私たち栄養士がそういったことを勉強し、各地域で広めていく。また、県内の児童福祉施設の栄養士が集まり、それぞれの施設で出前講座をして子どもたちに郷土料理を知ってもらい取組も行っている。学校給食でも琵琶湖の鯉を使った献立は取り入れられていると思う。

会 長 生産者の話を聞いた上で調理したり、食べたりという一連の流れで見せていくということが大事だということ。

委 員 課題3について、子ども食堂で野菜の出前講座やエプロンシアターなどを行うなど、野菜について知る機会を設けていただけるとありがたい。課題6にも関連すると思うが、子ども食堂で中華料理に油を注いで火が上がる場所を実際に見せたり、パネルを使った野菜クイズをしたりというところもある。それぞれの子ども食堂などの機会に、子どもたちに野菜や食に関することを深めてもらえるところがあればと思う。また、食関連の民間企業が、野菜ジュースや身近に遊べる野菜折り紙等を提供してくれるので、子ども食堂や学童保育所等に配っている。子どもたちが身近に遊べるような部分で食に関する事が出来れば。個人的には食育という言葉聞いてイメージがわきにくいのでわかりやすい言葉に置き換えて啓発していくのも一つかと感じる。

課題9の調理体験について、学童保育所で子ども自身が指導員と一緒に昼食を作る手作り昼食の機会を設けているが、指導員の不足により十分に時間が取れていない。地域の方などお手伝いをしていただける方が増えるともっと広がっていくのではないか。

会 長 食関連の民間企業との連携、タイアップというのも政策の中では取り組むべきかと思われる。あと、子ども食堂などで作るということを見せていく、それは体験というところにつながる。

委 員 課題1のメタボリックシンドロームについて、例えば小学生のうちからバランスのいい食事や、どうすれば肥満にならないかということを見せていくと、大人になっても気をつけて食事を摂り、メタボにならない体づくりが出来ると思う。適度な運動も大切だということをおさいうちから教えるとよいと思う。

課題5の共食は、地域でバーベキューをするなど、楽しく食事をする機会を設けるといいと思う。

委 員 課題2のカルシウムは、中学1年生だけでなく小学6年生でも骨について指導して

もらっている。もう少し学年の低い子にもカルシウムの大切さについて話していた  
けると子どもたちの意識が高まると思う。

課題4の朝食欠食率が高いということにはとても驚いた。小学校では6年生で朝食  
づくりの学習があり、そういった学習をしても卒業後は若い世代で朝食を食べ  
ていない人が多く、ショックを受けた。市内の家庭科主任が集まる機会に、実態を  
伝えて朝食摂取の大切さにもう少し力を入れて指導することを伝えていきたい。

課題5の共食では、子ども食堂が現在7箇所あると聞いた。9校小学校があるので、  
各学区に1か所ずつあるように広がっていくとよい。

課題9の調理体験は、ふれあい料理教室が夏休み中ということで子どもたちも関心  
があり、申し込み多数で人気の教室だと思う。回数を増やして全員が参加できるよ  
うにしてもらえるとありがたい。

会 長 共食の関係の子ども食堂について、9校中7か所子ども食堂があるということだが、  
子ども食堂の案内というのは学校を通じてチラシとかを配っているのか。

委 員 それぞれの食堂によって取り扱いが異なる。小学校の校長先生に配ってくださ  
いとお願ひに行かれているところもあるし、個々に地域で声かけされているところもあ  
る。

会 長 私は、学校とタイアップした方が子ども食堂はよりよくなるだろうと思っ  
ている。子ども食堂が増えていったらという意見もいただいた。その方向は学校との関連の  
中で支持したい。

委 員 課題1のメタボは、小さいうちから太っているお子さんがいらっしゃるので、保護  
者が勉強できる場所があるといい。

課題6の食育への関心についても、やはり保護者に「朝食は大切です」と園から言  
っても、保護者が忙しいため、ものをかじりながら登園してくることもある。園で  
もどうにかならないかと考えているが、保護者が勉強する場があればと思う。

課題7の食品ロス、園での残食はかなり多い。1人のお子さんに対して〇カロリー  
という形で調理しているが、野菜が残る。家では食べているというが、実際に量を  
どれだけ食べているかはわからないため、園の課題となっている。

委 員 課題6について、小学校3年生、6年生、中学校1年生に対して食に関する授業を  
していただいているが、中学校3年生を卒業するにあたって、それから先、自分で  
食を選んでいくことが増える年になるかと思う。中学校卒業から朝食摂取率が大き

く落ちているので、ここがそういう話ができる最後のポイントかと考える。職員室で先生と話していても、3年生がこれから食を選んでいく中で、栄養に関することや、朝食に関する話をしていただけるといいのでは、という声があった。

課題7の残滓は、毎月、学校にはどれくらい残っていますという%を教えてもらっているが、それを家庭とか、子どもたち本人に伝える機会がなかなかないという状態。自分たちで残滓がこんなにあるということに子どもたちが気づける取組ができたらと考えた。

課題8は、郷土料理ということで、小学校4年生で菜めしと田楽について学習し食する体験があるが、毎年1回、給食で菜めしが出てきたりすると、子どもたちの中にも毎年出てくる定番のメニューとして記憶に残り、定着すると思う。

課題9の中学生のお弁当作り調査に関して、調査はしていただいているが、家庭の時間などの都合で実際に参加できている生徒は少ない。事前に簡単にできるレシピや、数分でできるメニューの提案等があればもう少し参加してもらえるかもしれない。また、たとえば1年に1回、この日、週にお弁当を作ってみましょうとキャンペーンを張るなどすれば、もう少しお弁当を作ってみようかという生徒がいるかと思った。

委員 課題4の朝食欠食が高いところ、20歳代男性で特に欠食率が高いということで、働き盛りの世代の問題となっている。朝食の重要性を伝えていくターゲットが働いている方となるが、保健所ではもっと事業所に行政が入って行こうという考えで、健康づくりに関するアンケートを事業所の方にしてもらっている。事業所でどういう課題を抱えているか聞いたり、出前出張があれば希望しますかとか聞いている。関心があるところには、たとえば朝食に関しての出前講座を、保健所を通して手配させていただければ、もっとつながっていけると思う

課題1のメタボリックシンドロームは、働き盛りの方の問題ではないか。第2次計画の評価のところでお話があったが、栄養成分表示の使い方、コンビニのご飯の選び方とかを指導していくと改善につながると思うので、その知識の啓発ができるといい。

課題3の野菜摂取量について、健康推進員さんの量販店で野菜を計る取組はすばらしいなと聞いていた。なかなかお金の問題があって難しいということだったので、フードモデルを使って350gを教室の時に見せるとか、目安として生野菜なら両手

でこんもり乗せたら100g、片手で80gくらいですよとお伝えするなど、そういう啓発の仕方もあるのかなと思った。

会 長 事業所とか事業者には直接行政が入って行く、保健所が入って、つながって指導していかないと行動改善まで行かない。意識啓発のレベルでチラシ撒いて終わりでは変わっていかないので、そのあたり一歩踏み込んだ形での取組ができないかと。課題1に関して、コンビニのご飯の選び方、少なくとも栗東市内にあるコンビニとタイアップして、選び方とか貼れないか。そういう啓発が無理なのかどうか、こんなのは無理だろうではなく、考えてみてもいいのではないかと。

委 員 少し前まで健康推進員をしていた。栗東市では、「早ね早起き朝ごはん」が一つのテーマで、エプロンシアターでちゃんと食事を摂るとか、栄養バランスについて、幼稚園や保育園に出向いて行っているの、すごくいい取組だと思う。お母さん方に、いかに朝ごはん摂るといことが、子どもの勉強のスタートにつながるということに気づいていただけたらと思う。また子ども食堂に関わっているが、夏休みや冬休みにはおやつ作りを要請される。子どもたちはすごく楽しみにしている。また、サツマイモを植えさせてもらったり、それがとれたらスイートポテトを作ったりしている。子ども食堂だけで田んぼも体験させてもらった。

委 員 私も子ども食堂に関わっていて、お菓子作りをいつもやっている。希望者が多く、みんなにやってもらうのは難しいというくらい人気。先ほど若い方の栄養指導のことで、事業所へ行政の方が行ったらどうかと言われていたが、もし行くとしても、手足というか、手先というか、そうなるのは例えば健康推進員になると思う。健康推進員だけがそこへ出かけて行って、段取りして、と全部やるとすごく大変。うまくコンタクトがとれなかったり、時間を取ってもらえなかったりがあるので、行政の方がまず行っていただいて、その後、健康推進員がするとか、段取りとかを連携取っていただけるとありがたい。

会 長 健康推進員というキーワードが随所に出てきている。僕も詳細は分かっていないが、そこだけで完結するものではないので、行政との役割分担とか、事業所との連携とか。きちっと役割分担を考えた上で政策展開を考えた方がいいということでもまとめたい。

委 員 米を作ったり野菜を作るほうが主体なので、食の問題に関しては、いろんな形でご協力はしていきたい。

会 長 生産者に関わっていただかないとできない展開があると思うので、よろしくお願  
したい。

委 員 課題3で、自宅で簡単に野菜作りを体験。プランターなんかでもいいかなと思う。  
どこの家庭でもできると思う。その中から、作る体験、収穫して、自分で料理して  
みるなりを体験できたら、もっと野菜の摂取量というのは増えるかなと、個人的に  
は思った。

課題6は、栗東市でも行っているが分からないが、たとえば、図書館とかで定期的  
に、子ども向けに食育の読み聞かせを行うようなことをしていただいたら。今なら  
夏休み期間中で、子どもが図書館に行く機会も多いかと思うので、たとえば、何時  
から10分間か、15分間か話をしますよとアナウンスを流して、子どもが集まってき  
て興味を持ってくれたら食育の関心につながるのではないかと思った。

課題5については、ケースによってはバーベキューなんかをして、自然の中で食を  
楽しむという機会に触れてもらったら、興味関心をひくきっかけになるのではと思  
う。

委 員 病院で6月から特定健康診査の健康診断をやっている。問診でメタボや異常があっ  
たら、それに対する取組を考えていますか、という質問に「考えている」という人  
は多いが、実際やるかというとあまり積極的な意見は出てこないのが現実。かとい  
って、全く無関心な訳ではなく、100歳体操には結構行かされている。当然メタボリッ  
クシン드ロームの改善には食事だけではなく運動療法も必要。100歳体操をしてい  
る場所で、バランスの良い食事に対する講座も聴くということだった。運動と食事  
両方をやる。年齢や体力にもよるため、それぞれにあったアプローチが必要。それ  
を行政レベルでやるのも大事だが、個々に踏み込んでいくシステムがないから上手  
くいかない。本来は医師である我々がリーダーシップを発揮して伝えたらいいのか  
もしれないが、日々の食事はなかなか難しい。特に、働き盛りの人は時間もないし、  
野菜を買いに行く時間もないし、食べる時間も遅いし、となると実践するのは正直  
むずかしいところもある。一挙に解決するには、運動したところで、あなたのこう  
いう食事はここを変えましょうというようなアドバイスができれば時間をつくっ  
てもらえるかもしれない。まさにメタボリックシン드ロームの問題である生活習慣  
の改善は、私たちだけでは難しいと実感している。ぜひそういった形で、医師会の方  
にも働きかけていけたらと思う。



会 長 個々に踏み込んでいくシステムについて、他市の情報も共有し、市で実現可能なところでデザインしていってもらえれば。

副会長 課題6の食育への関心が低いというところで、最近では、音楽のフェスとかであれば若い人も結構参加していると思う。そういったところに、食育フェスみたいな感じであると。食育というのは子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、全世代で共有できるイベントになると思うので、最近で言えばファストフードやジャンクフードとかそういうものではなく、健康的なB級グルメみたいな出店を募って全体的に周知していくと、楽しみながら周知させていけるのではないかと思った。こういう会議というよりも、体験とか、楽しいことみたいな感じで広めていけるのではないかと思う。

課題9のところで、調理体験が不足しているということだが、調理体験だけでなく、（歯医者なので）噛むことの重要性だとかも体験していくことがまだ不足しているのではないかと思う。野菜とかお肉とか。お肉でも焼き方によっては噛む強さが違う。最近では軟らかいものを食べさせる親が多いので、お母さんとかにお肉を硬めに焼いて子どもたちに食べさせてくださいと、あごの力を強くするために、成長を促すためにお肉を硬めに焼いて食べさせてくださいという指導もしている。食べることとかの体験もなぜ必要なのか、体への影響とかを子どもたちに考えさせる機会があればもっといいと思う。

会 長 皆さんどうもありがとうございます。一巡したことで、課題1～課題9までまんべんなくご意見が出たと思うので、これを事務局の方で整理していただき、既存の取組に合わせて、あるいは修正をして、第3次計画に盛り込んで行ければと思う。

#### （6）第3次計画の基本的な考え方

- ・事務局が資料の説明を行った。

会 長 前回までのものを「つづける」「つながる」「つくる」に整理をして、連環するような形。先ほどの皆さんのお話を聞いていても、一連の流れで施策の取組を進めていったほうがとか、こことここはつながっているとかは多々あったかと思う。お一人ずつは何わないので、資料6についてご自由に意見をいただきたい。

委 員 先ほどの話になるが、小学校の家庭科というか調理実習というのは、何をやってい

るのか知りたいので教えてほしい。私の子どもはポテトサラダとか作ってくれた記憶がある。調理実習というのは何回くらいやるのか。

委員 5年生から家庭科があり、まず5年生では「ゆでる」という勉強をする。青菜をゆでたり、ジャガイモをゆでたり。秋頃には和食の基本であるご飯と味噌汁を作る。透明なお鍋でお米がご飯に変わるまで観察するような理科的な感じ。6年生では「炒める」ということで、フライパンを使ってお野菜を炒めたりする。6年生の秋頃に、1食分の献立を考えて、全部はできないが、それにつながるようなおかず作りをする。学校によっては簡単なお弁当をそこで作るような経験をさせる場合もある。

委員 (資料6を見て) いっぱい字が書いてあると見にくかったりするが、少ない言葉で見やすく工夫してもらっている。

委員 私もそれは感じていた。「つ」つながりで覚えやすいし、絵を見ただけで楽しそうな、頭に入ってくる感じがした。

会長 どうしても行政が作る計画は文字が多い。イラストやビジュアルで示していないとだめだ。このベースというのは、お二人の委員からの好意的な反応だった。

副会長 個人的に、つながるといふところに入っている感謝の心を育むというのは、作ってくれているおかあさんとか、生産者の人にも、感謝の心を育むというのはとても子どもたちにとって大切な心構え。そういうのが入っているのがいいなと思った。

委員 つくるという部分で、農協や農業委員会でされている活動があれば教えていただきたい。

委員 農協では小学3年生から6年生が対象のわんぱくスクールという活動をしている。参加者は40名くらいで、4つの班に分けて、農業体験を基本にして1年間、月1回というような活動をしている。多くの子どもが来てくれていて、体験した子どもからの評判を聞きつけて次につながっており、10年くらいになる。小学校からチラシを配布していると思う。私が(担当として)やっているときにはお願いしに行った記憶がある。

会長 学校、園では栽培できるようなスペースはあるのか。

委員 学校では、2年生で1人1鉢、自分たちで野菜の苗を選んで、育てて、夏休み期間中は持って帰って、収穫したりしている。他に、学校園という畑がある。サツマイモやキャベツを育てる体験をしている。

- 会 長 各学校で、学年ごとにそういう取組をされている。
- 委 員 これ自体とは関係ないが、先ほど出たお話の中で、100歳体操などあまりご存じない感じだったので、地域で健康に関するいろいろな取組があるのに、それぞれが独立してばらばらになっていて、こういう取組がある、とまとめて知らない現状がある。関係ある方が全部知れるようなつながったものというか、ぱっと見たら分かるようなことができたらすごくいいと思った。
- 会 長 情報の共有のところ。食とか健康に関わる人たちというのは、意外と横につながっていないということが、実はこの会議をやって分かったところでもある。それぞれがいい取組をしているのだから、そこをきちっとつないでいく。だれがセンターをやるのだという、私はやはり行政の役割は大きいと思う。そういう絵を描くということは大切。
- また追加でお気づきの点があれば、次回の会議までに事務局へ寄せていただけたらと思う。資料6の基本理念と基本目標の方向性については、これでよいのではないかということかと思う。

## 5. その他

- ・第3回第3次栗東市食育推進計画策定会議について  
10月18日（金）午後1時30分～午後3時30分を予定。  
計画の骨子案を提案し、ご検討いただきたい。

## 6. 閉 会

- ・副会長が挨拶を行った。

以上